

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34426

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12941

研究課題名（和文）近代東アジアにおける「表現の自由」と文化的相互浸透に関するメディア社会学的研究

研究課題名（英文）Media Sociological Studies on 'Freedom of Expression' and Cultural Interpenetration in Modern East Asia

研究代表者

大尾 侑子（OBI, YUKO）

桃山学院大学・社会学部・准教授

研究者番号：50816569

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「近代東アジアにおける「表現の自由」と文化的相互浸透に関するメディア社会学的研究」という課題設定のもと、戦前日本と上海のメディア文化流通、および1950年代における日本と台湾の禁書運動の実態について明らかにした。その成果は、学術論集『戦中・戦後日本の国家意識とアジア』（勁草書房、2021年）所収の論文「焚書された「日本」イメージ——戦後日本の悪書追放運動と台湾の禁書政策から」、および単著『地下出版のメディア史』（慶應義塾大学出版会、2022年）にて公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、各国家の西欧化プロセスとして論じられてきた「モダン文化」の表象、および言論統制と「表現の自由」の問題を、東アジア全体の情報のサーキュレーションとして論じる分析視角を採用した。その結果、日本の性文化雑誌における上海モダンガールイメージと、中国のモダンガール雑誌における「日本女性」イメージのズレや影響関係などを論じることができた。このように、近代の東アジアのモダン文化は、かならずしも「西欧化」という枠組みに限定されない文化の相互浸透過程という面を多分に持つものであったといえる。これは出版文化の研究にとどまらずカルチュラル・スタディーズやジェンダー研究にとっても学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the distribution and circulation of media culture in prewar Japan and Shanghai, and the actual situation of the book-ban movement in Japan and Taiwan in the 1950s, from the perspective of media sociological studies.

The results were published in the academic essay 'The Image of Japan in the Burning of Books: Postwar Japan's Campaign to Ban Bad Books and Taiwan's Policy of Banning Books' ("National Consciousness and Asia in Postwar Japan", Keiso Shobo, 2021), and "Media History of Underground Publishing: Ero-Gro, Chinsho-ya, and Cultivationism" (Keio University Press, 2022).

研究分野：歴史社会学

キーワード：メディア史 東アジア 焚書 発禁本 モダンガール 上海 梅原北明 エロ・グロ・ナンセンス

## 1. 研究開始当初の背景

近年、中国の「サイバーセキュリティ法」や日本の「共謀罪」法施行など東アジア諸国は国内の言論統制と国家間の情報規制を強化している。この状況を戦前回帰として難詰する議論が根強いが、印象論ではなく東アジア全体の情報流通の問題として論じる実証研究が求められる。これに関連した研究は、日本、中国、韓国でも多角的に進められているが、申請者は先行研究に大きく三つの課題があると考えます。

第一に、日本国内では「戦前・戦中期検閲の実態解明に関しては、現状として占領期検閲ほど研究が進んではいない」(牧義之 2014: 20) ために戦前資料の整理と実証研究が求められること。第二に「検閲のシステムは単純な抑圧と被抑圧の構造から成るのではなく、複雑に偏在し、分散している」(紅野謙介 2014: 40) 点が看過されており「国家 = 抑圧者」対「国民 = 被抑圧者」という権力図式を脱構築すべきであること。第三に、近代東アジアでは「セクシュアリティのメディア的表現物の流通・享有」が「国家が共同で対処すべき識別可能な犯罪者であるかのように取り扱われた」(李惠鈴 2014) ことの検討が不十分な点である。

こうした課題解決への糸口として、申請者はこれまで風俗壊乱に抵触するメディアと出版人の実践に関する歴史社会学的分析を行い、散逸の激しい発禁資料の調査収集と資料復刻に携わってきた。しかし、現時点では国内の分析に留まっており、東アジア全体を俯瞰する発展的研究を行うことにより、国際水準の成果を生み出し社会貢献性を高めたいと考えた。

## 2. 研究の目的

そこで本研究の「問い」を“東アジアの「戦前」的状況における表現の自由としての「モダン文化」とは何であったのか”と設定した。そのうえで、この問いを“戦前・戦中期に同時発生した「モダン」文化は西欧化の従属変数ではなく「間メディア的空間」としての東アジアにおける重層的な文化的コンフリクトを変数とした析出のパターンである”という作業仮説に置換し、仮説の検証を行うこととした。以上の学術的「問い」を踏まえて、本研究では 1920 年代から 1940 年代に遡り、国民国家の枠組みを超えた「間メディア的空間」(遠藤薫 2004) として東アジアの言説空間を捉え、「モダン」文化の相互翻訳過程を明らかにすることで、言論統制下におけるメディア・文化のコンフリクトと相互浸透の実態を解明することを目指した。

## 3. 研究の方法

言説分析によって出版人の言説実践とネットワーク形成を明らかにする。具体的には、言説上でいかにして各国の諸メディア間の相互参照(出版、映画、レコード、身体、都市空間)が行われていたのかを分析することで国民国家の枠組みを超えて共有される価値の体系と、それに基づく想像の共同体(モダン文化の「解釈共同体」)の実態を解明する。

より具体的には、以下【分析 1】から【分析 3】の分析軸を設定し、成果を公開することを目指す。【分析 1: 制度の実証研究】近年、戦前の検閲制度を東アジア全域に及ぶ「帝国」

的権力として把握する比較文化研究が日韓共同で進められている(紅野謙介ほか 2014)。本研究ではこうした制度の実態を踏まえながら、「検閲」という事態を文化的コンフリクトの媒介変数として捉えることで、「上からの圧力/下からの圧力/ヨコからの圧力」という文化翻訳の文脈のなかに位置付け直す作業を行う。これによって検閲を「抑圧者 = 国家」対「被抑圧者 = 国民」と捉える図式を脱構築し、当時の出版人と検閲、メディアの複雑な関係を問う。

【分析2:モダン文化の表象研究】1990年代以降、日本のモダニズム研究は映画史、文学史、美術史だけでなく、文化社会学などの文脈でも活発に論じられてきた(岩本憲児 1992; 和田博文 1992; 鈴木貞美 1992; 吉見俊哉 2002 ほか)。中でも「モダン」流行の象徴、セクシュアリティに関わる問題系として「エロ・グロ・ナンセンス」に関する議論が活況を呈しており、欧米ではミリアム・シルバーバーグ、韓国ではソ・レソプらがこれに着目し、日本の風俗文化輸入について論じている。これらを参照しながら、このパートでは『現代猟奇尖端図鑑』(新潮社、1931年)などの書物のほか、日本から中国・朝鮮に輸出された発禁本や発禁雑誌などの特殊文献を対象に、東アジアの同時代的モダン文化の表象を比較検討する。

【分析3:メディア社会学的研究】ここでは【分析1】から【分析2】を有機的に連関させるべく、メディアが複雑に錯綜しながら相互作用をする「間メディア的空間」(遠藤薫 2004)という視点を導入する。とくに戦前日本で発禁処分にあった雑誌『グロテスク』や上海で刷られた『カーマシャストラ』などの猟奇趣味・グロテスク趣味雑誌のほか、酒井潔『巴里上海歡樂郷案内』(1930年)、『異国風景浮世オン・パレード』(1931年)などの書物を対象に、当時の出版人が「上海」や「朝鮮」という都市をいかに意味付けていたのか、また国家を超えて「女性」という身体がいかにまなざされたのかを検討する。同時に、旧植民地や中国で日本のモダンな諸メディアがいかに受容されていたのかを、相互作用の視点から分析することで、国家を超えメディア上で形成された「場」を明るみに出す。

#### 4. 研究成果

以上の分析のもと、大きく次の二点を明らかにした。第一に戦前昭和の地下出版界と上海における出版流通の関係性である。日本で発禁処分となった性・風俗文化の媒体において、上海という地は「理想郷」として描かれた。またこうした地下出版の版元(珍書屋)が、1927年頃に上海に事務所を移し、現地で出版活動をおこなっていたことも明らかにした。これらの点は『地下出版のメディア史 エロ・グロ、珍書屋、教養主義』(慶應義塾大学出版会、2022年)において成果を公開した。第二に、戦後日本の悪書追放運動と台湾における禁書運動の実態を比較検討し、間接的な影響関係や、日本の性風俗雑誌の位置付けについても明らかにした。これは遠藤薫編著『学習院大学東洋文化研究叢書 戦中・戦後日本の 国家意識 とアジア 常民の視座から』(勁草書房)における論文「焚書された「日本」イメージ 戦後日本の悪書追放運動と台湾の禁書政策から」として公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大尾侑子	4. 巻 39
2. 論文標題 ファンの愛情か、音楽チャートの攪乱か? K-POPアイドルファンの「スミン」行為にみる “越境する” 協働	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Culture	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大尾侑子
2. 発表標題 「有害図書類」が “生まれる” 場所 尼崎市における「白ポスト」回収作業のフィールドワーク
3. 学会等名 第93回 日本社会学会大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳怡禎, 大尾侑子
2. 発表標題 「傑尼斯偶像網路時代下の粉絲消費新模式 傑尼斯迷網路使用之台日比較」
3. 学会等名 文化研究年會 2021（文化研究學會 Cultural Studies Association, Taiwan）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大尾侑子
2. 発表標題 悪書追放運動における「母」 “子を守る母” が生み出す世論と「悪書」
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 司会・大尾侑子、問題提起者・長崎励朗、松井広志、討論者・佐藤卓己、大石裕
2. 発表標題 若手ワーキングセッション 若手とベテランの間に「溝」はあるか？ - 若手研究者からの提言とその実現可能性
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大尾侑子
2. 発表標題 戦前昭和の「国家」を超えた「市井の学」 性民俗学と佐藤紅霞
3. 学会等名 日本近代文学会 2018年度春季大会 2018年5月27日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大尾侑子（討論者）、長崎励朗（司会者）、北村 智、国枝智樹（問題提起者）、山本昭宏（討論者）
2. 発表標題 変化するメディア環境とマス・コミュニケーション研究の今後 若手研究者の視点 . 日本マス・コミュニケーション学会
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2018年度春季研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 「東アジアの女性ファン文化とネットワーク社会」（ワークショップ9）
2. 発表標題 大尾侑子（司会者）、吉光正絵（問題提起者）、小川博司（討論者）
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2018年度春季研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 大尾侑子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 152
3. 書名 解題「「出版人」にみる古書事業と愛書趣味の交点：伊藤竹酔の足跡を辿る」『粹古堂・伊藤竹酔 昭和前期の軟派出版と古書事業』復刻 全三巻・別冊（文圃文献類従）	

1. 著者名 大尾侑子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 598
3. 書名 解題「パンフレットにみる戦前昭和の軟派出版史 梅原北明と伊藤竹酔の交差点」『性・風俗・軟派出版パンフレット集成 第2巻セット』	

1. 著者名 大尾侑子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 18
3. 書名 『粹古堂・伊藤竹酔 昭和前期の軟派出版と古書事業』復刻 全三巻・別冊（文圃文献類従）	

1. 著者名 大尾侑子ほか（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 27
3. 書名 担当箇所「出版界の「異端児」と東アジア 戦前昭和における理想郷としての「上海」」（『日本近代における〈国家意識〉形成の諸問題とアジア』）	

1. 著者名 遠藤 薫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 日本近代における 国家意識 形成の諸問題とアジア	

1. 著者名 大尾侑子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 352
3. 書名 カストリ雑誌考 完全版 復刻 (文圃文献類従)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------